

2023 スーパー耐久シリーズ第2戦において、 次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」給油車両で24時間完走

株式会社ユーグレナ

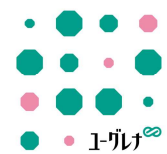
株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲充、以下「ユーグレナ社」）は、5月26～28日に富士スピードウェイで開催されたENEOSスーパー耐久シリーズ2023 Powered by Hankookの第2戦『NAPAC 富士 SUPER TEC 24時間レース』において、ST-Qクラスに参戦したマツダ株式会社のSKYACTIV-D 2.2（市販車両と同じディーゼルエンジン）搭載車「MAZDA SPIRIT RACING MAZDA3 Bio concept」に、化石由来の軽油と混合しない100%の次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」（以下「サステオ」）を供給し、完走（529周回、約2,414km）したことをお知らせします。



「サステオ」を給油した「MAZDA SPIRIT RACING MAZDA3 Bio concept」


「サステオ」は、バイオマス（生物資源）を原料とし、車両自体の内燃機関を変更することなく使用することが可能な次世代バイオディーゼル燃料です。この「サステオ」は、燃料を使用する際の燃焼段階ではCO₂（二酸化炭素）を排出しますが、原料であるバイオマスが成長過程で光合成によってCO₂を吸収するため、燃料を使用した際に発生するCO₂の排出量が実質的にはプラスマイナスゼロとなり、カーボンニュートラルの実現に貢献すると期待されています。

サステオ



今回マツダが参戦した車両は、化石由来の軽油と混合しない100%の「サステオ」を使用しており、同車両に搭載されているディーゼルエンジンSKYACTIV-D 2.2は十分な性能を発揮することが出来ました。2021年のシリーズ第6戦「スーパー耐久レース in 岡山」以降、「サステオ」を100%で使用しており、今回が最長の走行距離となります。

ユーグレナ社は、今後も「サステオ」の普及拡大に向けて、スーパー耐久シリーズで燃料供給を行う予定です。



<株式会社ユーグレナについて>

2005年に世界で初めて微細藻類ユーグレナ（和名：ミドリムシ）の食用屋外大量培養技術の確立に成功。微細藻類ユーグレナ、クロレラなどを活用した食品、化粧品等の開発・販売のほか、バイオ燃料の製造開発、遺伝子解析サービスの提供を行っています。また、2014年よりバングラデシュの子どもたちに豊富な栄養素を持つユーグレナクッキーを届ける「ユーグレナ GENKI プログラム」を継続的に実施。「Sustainability First（サステナビリティ・ファースト）」をユーグレナ・フィロソフィーと定義し、事業を展開。<https://euglena.jp>